

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート

＊被災地支援の訪問演奏は、2011 年 4 月から 2016 年 4 月までで通算 187 回となりました。

< 第33号 >

2016年5月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

この春、桜の季節から新緑の季節にかけて、2 度にわたって福島県南相馬市を訪れました。その様子を 2 号に分けてレポートいたします。

4月1日～3日

南相馬市への道

東京では桜が満開を迎えた 4 月のはじめ、福島県南相馬市を楽員たちが訪れました。

新幹線の福島駅からは、途中、立ち入り禁止区域を避けるため遠回りして向かいます。福島市から川俣町、飯館村を抜けて南相馬市までは約 1 時間半ほどの道のり。一見のどかな山々の風景を背景に、目に飛び込んでくるのは行き交うダンプカー、「除染作業中」という立て看板、そして更地のような地面（もともとは田畑）に積まれた放射性廃棄物の詰まった黒いビニールバッグ。全て、周辺の山々や田んぼの表面を除染したものののだそうです。その量の多さと気の遠くなる除染作業に、メンバー一言言葉を失ってしまいました。しかも、これは仮の置き場。最終処分地はまだ決まっていません。



一見、日本昔ばなしのようなのどかな春の風景

1 日目、まずは原町第一中学校の音楽室をお借りしてリハーサルをさせていただきました。

校長の遠藤先生にお話を伺うと、子どもの数は震災前の三分の一、そんな中で全国大会常連校の原町第一中学校の吹奏楽部は地域の人びとの星なのだそうです。小学校にも金管バンドやマーチングがあり、小学生の頃から音楽に親しんでいる子どもが多いそうです。この春からの新一年生も、入学式前にもかかわらず上級生に混ざって練習に精を出していました。また、遠藤先生によると、地域の高校にも吹奏楽部があり、音楽の道や教育の道に進んで今度は指導者として後輩たちに教えに來たり一緒にコンサートをしたりする人材も少しずつ出てきている、ということです。若者が地元のために帰ってきてくれること、音楽を介して人々の絆が繋がれ続けていること、その一助に日本フィルもお役に立てたらこんなに嬉しいことはありません。



春休みも思う存分練習さんまい！



中学校正面には、吹奏楽部によるアンサンブルコンテスト受賞の垂れ幕が輝いていました

ふたたび、集う場へ。旧警戒区域にあるお寺でのコンサート



名刹と呼ぶにふさわしい、美しく神秘的な境内の様子

翌日は小高区に移動し、名刹・同慶寺での昨年 9 月に続く第 2 回目のコンサートです。

境内には何十本もの杉の木が立ち並び、樹齢 700 年の大いちょうの巨木がそびえ、荘厳な空気で満たされています。ただ、除染作業が一通り済んだとはいえ、そこは原発から 17 キロの場所。避難指示解除準備区域（旧警戒区域）のため、日中の立ち入りは自由ですが、住むことも宿泊することも制限されています。2016 年内には避難指示を解除するという国の見通しもあるそうですが（※）、南相馬市北部やいわき市などの県内、埼玉などの他県に避難している檀家の皆さんはそのことを明るいニュースとしては受け取っていません。（※ 国の見通しでは 2016 年 7 月 1 日に避難指示を解除するという方針があるそうですが、実際は南相馬市が住民の皆さんに説明を行った上でどうするかを最終的に判断するそうです。）人びとのいない境内はひっそりと神秘的な空気が漂っています。

開演時間が近づくと、このために小高区に戻ってきた方々で本堂はいっぱいになりました。檀家さん、原町第一中の子供たち、その保護者や家族の方々。再会を喜ぶ声と人びとの活気で雰囲気が一変しました。フェイスブックでこのコンサートのことを知ったという同宗派の別のお寺のご住職も加わり、心強いつながりがまた一つ生まれます。住職の田中徳雲さんが「みなさんに感謝、今私たちがここにあるのは、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、ご先祖様のあるおかげです。」とあいさつし、全員で般若心経を唱え心をひとつにして会が始まりました。

演奏は、ヴァイオリン田村昭博・竹内弦、ヴィオラ高橋智史、チェロ横山桂による弦楽四重奏。モーツァルトの弦楽四重奏「春」やピアソラのリベルタンゴ、吹奏楽でポピュラーな「アルヴァマー序曲（弦楽四重奏版）」などのプログラムを、楽器紹介を交えながら約 2 時間たっぷりお聴きいただきました。途中、休憩時間はお客様のカフェタイム。ご住職のふるまうお茶とお茶菓子を片手に、近況報告など話に花が咲いていました。こういう何気ない時間を故郷・小高の地で持つということが、今は貴重なのかもしれません。「ヴァイオリンやチェロなど近くで見たことがなかったので、間近で聴けて感激した。」「なじみのある場所でこういう音楽会が聴けて嬉しい。」と笑顔で話す方が多くいらっしゃいました。子どもたちからも、「かっこよくて感動しました。」「テレビとかで聴いているよりも音がすごいきれいで感動した。」「今までと違う音楽の表現があって、楽しかったです。」「弦楽器の音を間近で聴いて、こんな音も出せるんだなと思いました。」という素直な感想が聞かれました。



シャンデリアのような天蓋（てんがい）のもとに約 100 名がつかいました



ぼくもみんなも、同じ音楽家。中学校でのレクチャーとコンサート

翌日、原町第一中学校を訪れると、まずは生徒の皆さんが演奏でお出迎え。この日のために朝の新幹線で現地入りしたクラリネットの伊藤寛隆が加わり、演奏に聴き入ります。全日本アンサンブルコンテストで銀賞を取ったばかりのグループをはじめとして、3つのアンサンブルが熱のこもった演奏を聴かせてくれました。その演奏のレベルの高さと集中力のすさまじさに、一同絶句。思わず背筋をピンと伸ばして聴き入りました。「田舎はほかにすることがないから」と謙遜する保護者の皆さんも、動画を撮りながら本当に嬉しそうに見守っていました。保護者の方々の応援体制がしっかりしているのもこの吹奏楽部の特徴です。

その後は、教室に移動してのレクチャー&コンサート。クラリネットの伊藤が約40名の生徒と保護者を前に、演奏について、音楽そのものについて語りました。



日本フィル首席クラリネット奏者
伊藤寛隆

「みんなが演奏するときにいつも心がけていることって、どんなこと？音楽は演奏すると、人間そのものが出る。一番関係あるのは、人としての自分を常に磨いていかなければいけない、ということ。練習ももちろん大切だけど、心が音楽に出るんだ。それは演奏を聴けば分かる。たとえば、僕は優しくありたい。優しい心を持ちたい。じゃあ優しい心とは？何か。僕がいつも浮かべる言葉は、『感謝と尊敬』。どんなことに対しても感謝をすること。まわりを敬うこと。一緒に演奏する人を尊敬したい。なぜなら、一人じゃ何もできないから。特に、管楽器・打楽器はそうなんだよ。一人では音が一つしかでないでしょう。ピアノだったら伴奏とメロディの両方ができる。でも管楽器は違う。かならず周りの人の力があって音楽ができる。これはひとつの例だけど、そういう意味で感謝・尊敬を意識しているんだ。」

自身の演奏や音楽に対する信念を、分かりやすい言葉づかいで熱っぽく語ります。話は弦楽器の歴史の奥深さや演奏法の特徴にまでおよび、管楽器奏者が語る弦楽器の魅力に生徒たちだけでなく先生やスタッフ一同興味津々。最後にはいよいよ弦楽器のメンバーが加わってモーツァルトのクラリネット五重奏の演奏を聴いてもらいました。全楽章・30分ほどの大曲を、プロの音楽家たちが高い集中力と緊張感の中で演奏する様子を間近に見て、きっと生徒たちの心には多くの思いと感情が芽生えたことと思います。このような密度の濃い交流を通して、楽員たちもすがすがしい思いを胸に、帰路につきました。



教室は、即席のコンサート会場に



サクソ七重奏の見事な演奏に耳を傾ける



左から、ヴァイオリン田村、竹内／クラリネット伊藤／チェロ横山／ヴィオラ高橋



別れ際にサイン大会 皆の笑顔がはじけました



スナップ写真



同慶寺の門前には、「感謝」ののぼりが



見渡す限りに積まれた放射性廃棄物の山

日本フィル「被災地に音楽を」実施一覧

(2015年度以降)

- 【2015年】
5月1日 南相馬市原ノ町第二小学校
2日 南相馬市原ノ町一中学校
3日 同上
29日 岩手県立山田高校
30日 山田町立北小学校
介護事業所「恵みの里眺望」
31日 同町「いきがいデイサロン」
「いっぽいっぽ岩手」
6月19日 宮古市立高浜小学校
宮古患風支援学校
20日 同市山口公民館
同市「かかやきデイサロン」
9月4日 南相馬市小高地区同慶寺
9月6日 南相馬市民文化会館（ゆめはっと）
11月8日 荻窪音楽祭「みらい夢コンサート」
11月28日 大船渡市大船渡リアスホール
30日 南相馬市 鹿島生涯学習センター
12月19日 カトリック潮見教会

- 【2016年】
4月2日 南相馬市小高地区同慶寺（コンサート）
4月3日 南相馬市原町第一中学校（レクチャー&コンサート）
5月6～7日 南相馬市原町第一中学校（マイクさんワークショップ）